

標 題 : The effects of extra virgin olive oil and canola oil on inflammatory markers and gastrointestinal symptoms in patients with ulcerative colitis  
潰瘍性結腸炎の患者における 炎症マーカーおよび胃腸症状に対する  
エクストラバージンオリーブ油およびキャノーラ油の影響

---

著 者 : M. Morvaridi, et al. (イラン アフワズ ジュンディーシャープール医科大学  
健康研究所 糖尿病研究センター)

---

掲 載 誌 : Eur. J. Clin. Nutr. 2020 Jun; 74(6): 891-899

---

要 旨 :

背景/目的 : 潰瘍性結腸炎(UC)は免疫介在性の疾患で、消化管に炎症を引き起こす。  
食事は、潰瘍性結腸炎の治療で重要な役割を有する。  
この研究は、潰瘍性結腸炎の治療における機能性食品としてのエクストラバージンオリーブ油の影響をキャノーラ油と比較することを目的とした。

被験者/方法 : 40 人の患者がこのクロスオーバー臨床試験に参加した。  
32 人の患者が 2 つの介入期間を完了した。  
血液サンプルを 20 日間介入の前と後に採取した。  
疾患活動性スコアおよび胃腸症状を、それぞれ Mayo スコアおよび胃腸症状評価尺度(GSRS)を用いて評価した。

結 果 : 赤血球沈降速度 ( $p=0.03$ )および高感度 C 反応性タンパク質 ( $p<0.001$ )が、  
エクストラバージンオリーブ油の摂取後に有意に低下した。  
膨満、便秘、便意切迫感、残便感、および最終の胃腸症状評価尺度が、エクストラバージンオリーブ油の摂取後に有意に低下した( $p<0.05$ )。

結 論 : エクストラバージンオリーブ油の摂取は、潰瘍性結腸炎の患者で炎症マーカーを  
減少させて胃腸症状を改善した。  
この機能性食品は、補完医療として有効になるであろうと思われる。

---